

黒羽芭蕉の館だより ⑮

黒羽芭蕉の館コレクション展

「小杉放菴が描く『奥の細道』」

俳聖松尾芭蕉が黒羽に滞在した元禄2年(1689)4月3日～4月16日が、新暦では5月21日～6月3日となるのにちなみ、当館では平成21年度以降、芭蕉をテーマとした展示をこの期間に行っていました。(昨年度は休館により開催しませんでした。)

本年度は5月21日が月曜日(休館日)のため、その前日を会期初日としますが、「小杉放菴が描く『奥の細道』」というテーマで開催します。

小杉放菴(1881～1964)は日光市出身の画家で、文人的画境によって、洒落で禅味ある山水図や写実的な花鳥図など、独特の画風を創り上げました。

放菴が芭蕉の「奥の細道」の足跡を慕って旅に出たのは、昭和2年(1927)のことでした。この旅を経て放菴は、実見した山水により、あるいは芭蕉の文意を考え、43葉からなる『奥の細道画冊』を制作したのです。

この作品は大判・台紙貼りの画冊に仕立てられ、昭和7年、春陽堂書店から若干部が非売品として頒布され、昭和47年に同書店から

復刻版(限定500部)の発刊となりました。

今回展示するのはこの復刻版ですが、スペースの都合により、会期中で一部展示替えがあります。会期中にぜひご覧いただき「奥の細道」の世界をご鑑賞ください。

●テーマ

「小杉放菴が描く『奥の細道』」

●展示資料

『奥の細道画冊』(全43葉)

●会期

5月20日(日)～6月3日(日)

※会期中の5月21日(月)・28日(月)は休館

●会場

黒羽芭蕉の館 研修室

●観覧料

大人 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

※()内は20名以上団体料金



「夏草」

■問い合わせ

黒羽芭蕉の館

TEL (54) 4151

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 ③②

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は、3・3・1号線と白河信用金庫をつなぐ道路の中ほど、コンビニエンスストア付近にある作品です。



人の顔を模したもののから足が生えたような生き物が、自分たちと同じような形のものを頭に載せて運んでいます。

その顔は無表情で遠くを見つめているようにも見えます。

メモリー オブ サムシング フォーガッテン
Memory of something forgotten
(忘れたことに対する記憶)

イ チミン 李 知珉 韓国 2002年

作者のコメントにこのような一文があります。「私の作品の結合は先史時代のドルメンに見られる形態から影響されたものである。」

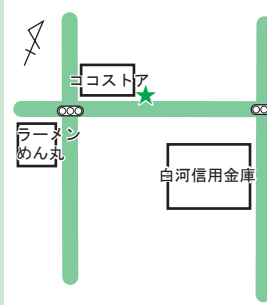
ドルメンとは巨大な石を使ったお墓で、石器時代あたりの古墳だそうです。そのことから、この作品を通して、作者は「石を壊し、組み合わせる行為」によって「生命の生成」と「復活についての渴望」を表現したかったのだということが分かります。



李 知珉 氏

作者は韓国出身のイ・チミン氏。2000年にソウル大学美術学部を卒業後、東京藝術大学大学院美術研究科に入学。在学中に、石ものがたり展など、多数の展示会に参加しました。

設置場所案内図(★印)



■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718